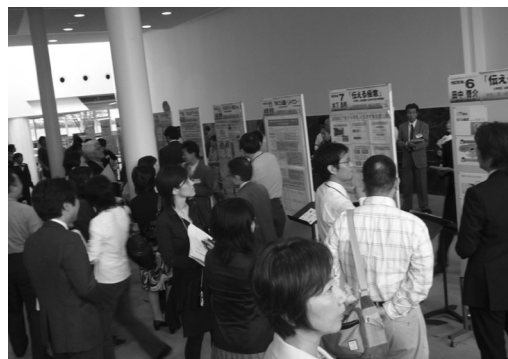


放送教育 ポスターセッション

第59回放送教育研究会全国大会の2日目、昨年度に引き続き「ポスターセッション」を行いました。全国から23のポスターが集まり、活発な研究交流が行われました。

本年度は以下の表のように、23のポスターが発表されました。

No	番組名	学年
1	しぜんとあそぼ／つくってあそぼ／おかあさんといっしょ	幼稚園
2	からだであそぼ	保育園
3	こどもにんぎょう劇場	幼稚園
4	おはなしのくに／つくってあそぼ／みてハッスルきいてハッスル	小学校
5	伝える極意	小学校
6	伝える極意	小学校
7	伝える極意	小学校
8	伝える極意 わかる国語読み書きのツボ5・6年	小学校
9	伝える極意 わかる国語読み書きのツボ5・6年	小学校
10	みんな生きている／NHKスペシャル ほか	小学校
11	日本とことん見聞録 しらべてゴー!	小学校
12	見える歴史	小学校
13	理科3年 ふしぎだいすき	小学校
14	理科5年 ふしぎワールド	小学校
15	さわやか3組	小学校
16	みんな生きている／道徳ドキュメント ／みてハッスルきいてハッスル	小学校
17	道徳ドキュメント	小学校
18	N響アワー	中学校
19	10min. ボックス 理科	中学校
20	10min. ボックス 古典・漢文	中学校
21	10min. ボックス 情報・メディア	高等学校
22	ストレッチマン2	特別支援
23	NHK学校放送番組の紹介	NHK



本年度の特徴は、

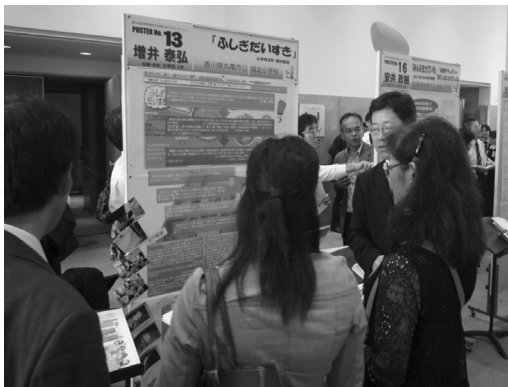
- 全体的に小学校からの実践発表が多いものの、その他の幼稚園・保育所、中学校、高等学校からのポスターが増えることで、参会者が他校種の放送教育実践会や番組についての理解を深めるとともに、参会者にとって自分の実践に生かせる場が広がり、充実した研究交流が実施できました。
- 学校放送番組以外の一般番組(N響アワーなど)の活用実践が報告されました。中学校・高等学校における放送教育実践の姿として、一つの問題提起がなされました。
- 多くの発表が個人の研究である中、幼稚園からの実践発表は、園全体で継続的に取り組まれたものであり、多くの参会者に共感を得られました。

本年度も、次の観点で参会者及び審査員(浅井和行京都教育大学教授、木原俊行大阪教育大学教授、福田哲夫NHK学校教育番組部長、守屋貞紀全放連事務局長)による投票及び審査が行われ、4点のポスターが理事長賞・特別賞に選出されました。

1	番組の特性や特徴を踏まえている
2	番組を活用する必然性が明確である
3	番組利用に、継続性や多様性を確認できる。
4	番組利用が子どもの成長（学力や人間力の向上）を促している。

理事長賞に選ばれたポスターは、学習のねらいに合わせて番組活用を学習計画にしっかりと位置づけていること、活用による子どもの変容を具体的な姿からわかりやすくまとめていること、研究の視点を明確にし、実践の様子を魅力的に伝えていることなどの点で、特に、参会者や審査員の共感を得たものでした。

ただ、発表されたどのポスターも、放送教育の実践として優れた特徴をもつものばかりで、多くの参会者は投票をどれにするかたいへん迷っているようでした。



参会者の質問に答える発表者

発表者は、限られたスペースの中で実践の様子をより参会者に訴えようと発表資料を作成したり、授業の様子を動画で伝えたりとさまざまな工夫を行っていました。

参会者は、今まで取り組んできた放送番組を活用した自分の実践をもとに、発表者に対して質問を投げかけました。そして、番組を学習にどのように位置づけるか、どのような意図をもって活用

するか、番組によってどのように子どもたちが伸びたかなど具体的な話し合いがどのパネルの前でも行われ、熱心なやりとりの中で発表時間があつという間に過ぎました。その中で、「番組活用の幅を広げることができた」「これまで活用したことのない番組についての発表を聞くことで、番組のよさを実感した。是非教室で活用したい」などの声が聞かれました。

また、発表者からも、「実践者同士の思いに触れ、また明日より頑張っていこうと意欲をもった。交流することの面白さを味わうことができ、とても楽しく充実した時を過ごせた」という感想が寄せられました。

また、校種を超えたコミュニケーションも多くなされ、小学校向けの番組を幼稚園や中学校で、また、中学校・高等学校向けの番組を小学校の授業で使ってみたいという声も聞かれました。



質問に答え、さらに詳しく説明する発表者

このポスターセッションは昨年度に引き続き行いました。新たに全体での感想・意見交換を設定し、参会者から、これからの授業にどのように生かすかという抱負や前日の研究交流会で指導していただいた講師の先生からのコメントなどを全体で共有することができました。

この研究交流の場を通して、広がったり深まったりした放送教育実践をさらに進め、子どもたちの学びをより豊かにすることを大切に、全国各地で取り組んでいってくれることを願っています。ご発表いただいた先生方、参加して下さった皆様本当にありがとうございました。